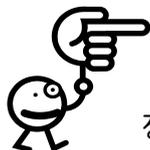


さがしてみよう！ ⑦大正時代のもの

大井郷土資料館 <住所 ふじみ野市大井中央2-19-5 電話 049-263-3111>

上福岡歴史民俗資料館<住所 ふじみ野市長宮1-2-11 電話 049-261-6065>



今回は、大正時代のしょうかいです。

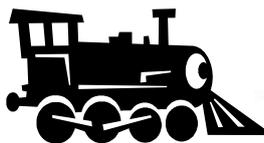
大正時代は「15年」という短い時代ですが、ふじみ野市では生活に大きな変化をもたらすできごとがいろいろあったんですよ。

★大正時代のおもなできごと★

大正3(1914)年5月 東上鉄道(今は東上線)開通

大正3年(1914年)に池袋から川越の間で、東上鉄道(今は東武東上線)が走るようになりました。このころはまだ蒸気機関車で、2時間に1本(上りも下りも1日9本)しかなく、池袋駅と上福岡駅のあいだも1時間ほどかかりました。

ちなみに寄居(よしい)までの全線開通は大正14年(1925)年、東上線で電車が走るのは昭和4年(1929年)からです。



大正3(1914)年5月 上福岡駅のたんじょう

東上線が開通した時につくられた駅の一つです。かわらぶきの屋根をもつ木造の小さな駅でした。

周辺には運送店や肥料屋、旅館をはじめいろいろな店ができました。



ふじみ野市に初めて電気がとあったよ！

大正6(1917)年ころから電柱建設工事の準備が進み、大正9~12年にはふじみ野市の広い範囲で電気が通りましたが、当時は電球1つしかない家がほとんどで、その下にみんなが集まって宿題や読書をしたそうです。しばらくは電気を使えるのは夜だけで、ランプやろうそくなども、まだまだ必要だったそうです。

大正10(1921)年 新河岸川の改修

明治43(1910)年に大洪水があったため、曲がりの多かった新河岸川を、まっすぐにする工事が、大正10(1921)年から約10年かけて行われました。

この工事で川の長さは3分の2になり、川崎橋・福岡橋もこの時につくられました。



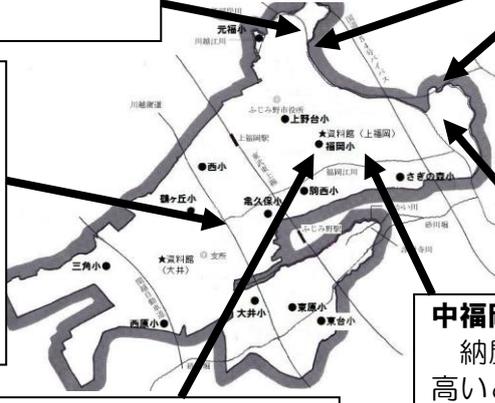
大正 12 年 9 月 1 日の関東大震災、ふじみ野市の被害は…？

川崎地区の田んぼ
南東の方から波のように、稲穂のうねりが近づいた。

地震は南の方からきて、南北にゆれた。

新河岸川・旧新河岸川
東側（川越市側）の護岸コンクリートにひび割れ。流路ぞいでは地割れがおこったところも。

亀久保地区の家
ゴースという大風のような音がしたかと思ったら、家が左右に大きくゆれた。工場の電気は一瞬にして止まった。
家は屋根のかわらが2、3枚落ちたのと土蔵の壁にひび割れができたぐらいだった。



下福岡共同墓地
墓石が倒れた。

中福岡地区の家
納屋の棟（屋根のいちばん高いところ）が曲がった。土蔵は、かわらや壁が落下した。池の水がはねた。

福岡尋常高等小学校（昔の福岡小学校）
数回大きくゆれ、校舎のあちこちがこわれた。



資料館で見てみよう！「産業に関するもの」

はたさく ★畑作の道具

市内の大井地域は、江戸時代から畑作地帯で、麦・サツマイモ・ゴボウ・ニンジン・大根などが多く作られました。
大井郷土資料館にある畑作道具は、埼玉県指定文化財にもなっています。

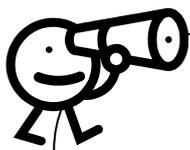
大井郷土資料館にあるよ！



★ほうきづくり

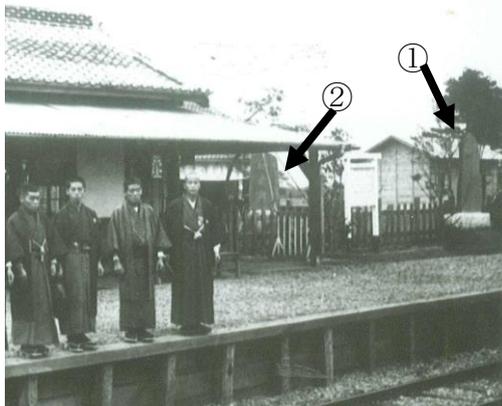
ふじみ野市はかつて、「ほうき」づくりの職人がたくさんいました。
特に大正時代は、国が産業に力を入れていたこともあって、海外に輸出したほど、ほうきづくりがいちばん盛んに行われていた時代でした。

上福岡歴史民俗資料館にあるよ！



行ってみよう、見てみよう！

上福岡駅にまつわる2つの「記念碑」と鉄橋



大正 5 年 上福岡駅のホーム

できてまもない上福岡駅ホームには、2つの記念碑がありました。①は駅ができたことを喜ぶ「福岡駅碑（「上福岡駅」になる前につくられた）」で、今は上福岡駅東口の階段の真下（ロータリー近く）にあります。

②は駅をつくるために土地を寄付してくれた人たちをたたえる記念碑で、今は福岡中央公園にあります。

また、東上線の鉄橋をささえる部分には、わずかですが大正3年当時からのレンガが残っているところもあり、「江川緑道（福岡江川）」にかかる鉄橋もその一つです。鉄橋の下をくぐる時は、注意してよく見てね！